

# 会議録

1 会議の名称 第9回公民館・町民会館整備検討委員会会議  
～第2回基本設計策定委員会～

2 開催日時 令和3年6月8日（火）午後7時00分～午後8時45分

3 開催場所 熊取交流センター（煉瓦館） コットンホール

## 4 議題

議事案件1 基本設計（6／8時点素案）について

議事案件2 その他

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者数 0人

## 7 審議等の概要

○会議冒頭、事務局より、前回会議（4月30日）から、基本設計（6／8時点素案）のとりまとめまでの経過について報告した。

### 議事案件1

○設計業者より資料について説明を行った。

#### 【委員からの主な意見及び質問に対する回答】

（委員）

ホールを平土間利用する際に使用する椅子をすぐに取り出せるように、収納場所について、再検討いただきたい。

⇒（設計業者）

承知した。

（委員）

小ホールのみを有する文化施設で、移動観覧席を採用している事例はあるか。現在の移動観覧席の設計は、電動・手動のどちらであるか。また、客席利用と平土間利用の転換に要する時間はどの程度であるか。

⇒（設計業者）

小ホールのみを有する文化施設という条件で、移動観覧席を採用している事例までは確認できていない。過去の設計事例では、固定席の大ホールを有する施設で、別の300人規模のホールで移動観覧席を採用した。特に大ホールの舞台のリハーサルとして活用するための要望が多く、平土間としての活用されている。移動観覧席やスタッキングチェアの昇降については電動を想定しているが、客席状態と平土間状態の転換は1～2時間要する。

(委員)

固定席のホールがあるということを前提に、利用の関連で施設内の別のホールに移動観覧席を採用するということは理解できるが、小ホールのみを有する施設で移動観覧席を採用することの適否については、平土間利用するイベント等の頻度や他施設での実施の可否の観点で、十分検討する必要があるのではないかと懸念している。

(委員)

移動観覧席は、利用者自身が簡単に操作できるのか。安全面を考慮して、床に移動観覧席のレール等を設置することになるのか。

⇒(設計業者)

移動観覧席のリモコン操作自体は簡単で、レールの設置も必要ないが、特に床の迫の昇降などは危険が伴うため、他市町村のホールでは、基本的に施設の管理者が操作を行っている。

(委員)

まなびのルームについては、Wi-Fi環境の整備やコンセントの設置について検討しているか。

⇒(設計業者)

まなびのルームについては、熊取町の運営の在り方と関連して検討する問題でもあるが、基本的にはコンセントを設置する。Wi-Fiは公民館内全体で自由に使えるよう、設計を進めていきたい。

(委員)

新築するホールの敷地の出入口について、安全面を考慮して、入口と出口を別に設けてはどうか。

⇒(設計業者)

敷地、道路との接続、既存の公民館の配置等を考慮すると、入口と出口を別に設けることは、物理的に難しい。安全面については、敷地内の道路の幅などで配慮したい。

(委員)

これまで整備検討委員会委員や住民から様々な意見が出ているが、整備検討委員会として決定したものは、基本構想の基本的な部分であり、個々の意見は、最終的には取捨選択し、設計業者に最善の設計案として提案いただくというプロセスになるため、本日の整備検討委員会として決めるべき事項を確認をしたい。

⇒(事務局)

ホールについて、「文化芸術活動の拠点」としてふさわしい音響や品格を備えたホールを整備

とするという方向性で良いか確認したい。座席は400席という一定の目安を持っているが、移動観覧席については、イニシャル・ランニングコストや、ホールの平土間利用の頻度等を踏まえて検討する必要があると考えているため、ホールの多目的利用について、各委員のご意見を伺いたい。

(委員)

新築するホールは、今後の熊取町の文化の在り方を決める可能性を持っており、コンセプトを明確に持つておくことが求められる。熊取町らしさ、あるいは、文化創造のシンボルであるということを、外観を通じても感じることができることが非常に重要である。現在の熊取町の特徴の一つは緑が多いところであると考えているので、敷地に緑を増やしていく必要があると感じる。熊取町のシビックゾーンに新築するホールは、今後の熊取町全体の景観の方向性にも関連する大変重要な論点であると考えているため、各委員のご意見を伺いたい。

(委員)

ホールの座席数については、400席程度で良いと思う。移動観覧席については、コスト面に懸念があるため検討が必要ではないか。煉瓦館は熊取町の特徴的な建物であり、そういった特徴を踏まえて外観について検討する必要があるのではないか。

(委員)

運営にあたっては、煉瓦館等の町内の他施設と相互補完することが重要である。外観については、落ち着いた色合いの建物にしていきたい。

(委員)

外観については、コストを考慮しつつ、緑を特徴にしていきたい。

(委員)

外観については、もうひと工夫必要ではないか。座席については、音楽の公演等に活用する場合でも、移動観覧席があれば舞台となるスペースが広がり、利用形態の幅も広がるのではないか。

(委員)

移動観覧席を採用いただき、平土間で社交ダンスができるようにしていきたい。(舞台は転落の可能性があるため危険である。) 公民館については、前回の素案からミーティングルーム2が拡大されており、現在の公民館より使い勝手が良くなると思う。

(委員)

ホールについては、公民館の日常的利用をこのホールでどのように考えるのか、あるいは、実現させていくのか、この点は管理運営にも関わるが、そういったところが不透明である。座席については、リハーサル室などで活動スペースを確保でき、平土間としての利用頻度が高くないのであれば、客席状態と平土間状態の転換の作業に要する職員の確保、作業時間やコストを踏まえると、固定席が良いのではないか。

(委員)

外観については、現在町内にある建物との関連性を強く考えなくて良いかと思う。ホール設計素案はホワイエの部分はかなり狭く、全体的に窮屈である。質の高い「文化芸術活動の拠点」となるホールとするためには、舞台袖の動線計画やゾーンの取り方は工夫する必要があるのではないか。

(委員)

コンセプトは、取捨選択する際の判断材料として大変重要である。座席については、設計業者に再検討いただき、提案いただきたい。

(委員)

レイアウトについては、これまでの諸活動の継続の保証が大前提であり、さらにその諸活動を発展させるものであることが求められるが、ホールについては、現在の設計素案は大変窮屈であり、管理運営の在り方も考慮して検討する必要がある。

また、ホールは、プロの演奏家などに、熊取の新たなホールで公演したいと思っていただけないような設備や空間を整え、熊取町の将来を担う子どもたちに、本物に触れる機会を提供したい。併せて、新たなホールで活動する全ての方が、やがて非常に高水準な文化的な活動を行っていくための基盤となるような施設、そういった観点でホールは設計していく必要があるのではないか。

外観については、「熊取町らしさ」を必ずしも煉瓦館などの町内の施設と関連づける必要はないが、「建物自体として何を表現しているのか」を感じ取れるということは絶対的に重要である。

(設計業者)

予算の配分（何を重視して整備するか）について、本日いただいたご意見や住民の方の利用の在り方を踏まえて、整備検討委員会と事務局とコミュニケーションを密にとりて検討し、より良いものを提案させていただく。

○審議結果

継続審議とした。

## 議事案件2 その他

○事務局よりアスベスト調査結果、地質調査結果（速報）について報告し、今後の進め方について説明を行った。

## 8 会議の情報

名称	熊取町公民館・町民会館整備検討委員会
根拠法令等	熊取町公民館・町民会館整備検討委員会設置要綱
設置期間	令和2年6月24日～所掌事務が終了するまで
所掌事項	(1) 基本構想の策定に関すること (2) 公募型プロポーザルにおける業者選定に関すること (3) 基本設計の策定に関すること (4) その他基本構想及び基本設計の策定に関し必要な事項
委員数	10人

9 担当課 生涯学習推進課